



水試の

# 何でも魚ツキング

No.60

## 寒ダラ漁の見通しについて

見通し

- ① 平成21年1～2月の寒ダラ漁獲量は290トン前後で、昨年の300トン並みで平年をやや上回るでしょう(過去20年平均242トン)。
- ② 魚体は、70cm前後、5kg前後が中心となるでしょう。
- ③ 初漁日(マダラ50kg以上水揚げ10隻以上)は1月15日前後となるでしょう。

説明

- ① 12月の延縄漁業での1隻1日当りマダラ漁獲量(CPU E)が多いほど翌年1～2月の寒ダラ漁獲量が多い傾向があります。したがって、寒ダラ漁獲量は、12月20日までの延縄CPU Eから計算し、 $290 \pm 50$ トンと予測しました。
- ② 平成17～19年の豊漁を支えた平成13年級は漁獲の主体からはずれました。魚体は5歳(70cm前後、5kg前後)が中心となると予測しました。
- ③ 底びき網の初漁日は寒ダラ漁獲量の多い年ほど早まる傾向があります。今期は平年を若

干上回る漁獲量が予測されることから、平年並みの初漁日になると予測しました。

注目事項

平成18年生まれのアマコ(30cm前後)の混獲が、昨年の春以降底びき網で増加しています。同様な情報は石川県以北の日本海各県からあり、平成18年生まれは卓越年級ではないか? 現在各県で検証中です。卓越年級である場合は4歳になる平成22年から漁獲が増大することが期待されます。

山形県水産試験場  
海洋資源部 研究専門員  
石向 修一

山形県マダラ漁獲量(1～2月、全漁業)

